



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第37号(R4. 11. 28)

授業研修の風景

先週 4 本の研究授業が行われました。この研究の取組が河東中の授業の質の向上と学力アップにつながっています。中には宗像区すべての小中学校から参観者が来られた授業もありました。

渡邊先生(道徳)

かつて青年海外協力隊での活動経験をもつ渡邊先生。自分の体験の裏付けのある「国際理解」の道徳の授業は、非常に説得力がありました。



7年2組で行われた道徳科の授業。「貿易ゲーム」という6つのグループを国に見立ててゲームを行います。その作業を通して国際社会の問題を考え、グローバル社会の一員としてどうあるべきかを探ります。「めっちゃおもしろい」「おー」という声が飛び交う中で、国際社会の貧富の差などの深刻な問題を考えました。

野口先生(道徳)

青森県で幼少期を過ごした野口先生。青森の「ねぶた祭」を題材に夢や目標について考える授業でした。これも野口先生の実体験の強みと思入れが深い授業でした。



8年3組で行われた道徳科の授業。夢や目標に向かっていくことの大切さを考えました。女性初のねぶた師である北村麻子さんは、中学生の時、将来の夢はありませんでした。彼女はどのように夢をつかみ、夢をあきらめずにやってきたのかを考えました。全校生徒のみなさんにとって、夢をつかむきっかけは今後たくさんあります。それを見逃さないよう、うまく気づいてほしいです。



甲斐先生(道徳)

スマートフォンでのLINEを通したトラブルの題材をもとに、適切な使い方や他者への思いやり、人のかかわり方を考えるケーススタディでした。

9年3組で行われた道徳科の授業。LINE で起こった問題をもとに、SNS 上でありがちな人間関係上のトラブルをクラスみんなで考えました。考えたことをグループ内で交流することはもちろん、全体の場でははっきりとわかりやすく発表できていました。30名を超える参観者がびっくりするほどの発表内容と発言力が際立っていました。



甲斐先生の授業は、宗像地区の人権教育授業研修会の代表授業として開催されました。宗像市と福津市の全小・中学校の各校の代表者をはじめ、福岡教育事務所・福津市教育委員会・宗像市教育委員会からもたくさんの指導主事の先生方が本校に集合しての研修会です。30名を超える授業参観者の前で、9年3組の生徒たちは全くものおじすることなく、むしろ自分の考えや意見を堂々と根拠を持って発表する姿に、来校された先生方は驚いていました。河東中生のすばらしさを9年3組が代表して示してくれるよい機会になりました。

高橋先生(体育)

高橋先生の柔道の授業。綿密に計画された単元計画をもとに、この時間は寝技のうち、けさ固めのみで一単位時間の学習。けさ固めを解く3つの方法を練習しました。



7年2組で行われた体育の授業。一単元にあれもこれも盛り込んでいったい何を学んだのかわらない授業とは対照的に、高橋先生はけさ固め一つにしぼり、さまざまなバリエーションで学ばせ、寝技について確実に習得させました。また、武道で重んじる礼の徹底(あいさつや道着のたたみ方・着脱等)、安全への配慮などはさすがでした。

2025年からの大学入学共通テストで重視されること ～「実用力」「活用力」「実社会で役に立つ力」「使える学力」～

みなさんが定期考査に一生懸命取り組んでいる11月10日(木)、西日本新聞の朝刊一面に右のような記事が掲載されました。大学入試センターが発表した2025年1月の大学入学共通テストの出題方針です。ここで発表された共通テストの変更点は、今の中学生が大学受験する時はみな該当するわけです。変更点を簡単に言うと、見出しにもある通り各教科とも「実用力」が重視されるようになります。今まで学校現場で使われてきた「応用力」とは少し違います。単なる応用して考える力ではなく、実生活や日常生活につなげて活用する力と言えるでしょう。実社会で実際に役に立つ力、使える学力と言い換えることもできるでしょう。

この変更は、河東中生もしくは卒業生にとっては有利になると言えます。なぜなら、河東中での日頃の授業はその点を意識して活用を重視した授業がなされているからです。河東中の授業では、日常や身のまわりに即した問題や課題が提示されることが多くあります。この学校だよりで掲載している「授業研修の風景」にもたびたび出てきました。福岡県の高校入試では、数年前から日常や実社会に基づいた出題がなされていて、そうした問題にもすでに河東中の授業は対応できています。

また、今回の変更で発表されたように、例えば高校社会科の公民の「公共」では、中学生レベルでの知識をもとに対話を通して考えを深めるようになっていて、それを踏まえた出題になります。この点についても、河東中では2年前より学校教育目標に協働と対話の重視を掲げ、授業でも考えや活動を交流することを重点化してきました。国語の出題ポイントを読んでも、「言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うことができるよう」「複数の文章や図、グラフを基に、レポートの内容や構成を考える設定の問題」となっています。

生徒のみなさんには、改めて実用力を身に付け、使える学力にし、仲間との対話で考えを深める学習をこれからもしっかりと進めていくことを願っています。

